

令和6年度第1回佐久市不登校等対策連絡協議会 概要

- 1 日 時 令和6(2024)年8月27日(火) 14:15~16:00
- 2 場 所 市民総錬センター多目的室2・3、フリースクール佐久
- 3 出席者 依田会長、北垣内副会長、石坂委員、林委員、中村委員、福島委員、関口委員、甘利委員
以上8名
事務局 吉岡教育長、佐々木学校教育部長、藤巻学校教育課長、大井学務係長、高橋指導主事、
越後主任

4 会議の概要

【委嘱書交付】 石坂篤 委員 中村努 委員 関口めぐみ 委員

(1) 教育長あいさつ

○現在は、多くの学びの場などが話題になっている。学校に通いたくないという児童生徒もいる。どうしていけばこの課題を解決していけるか。大事なことを議論したい。

(2) 会長あいさつ

○実態把握の資料が示されているが、事情は様々である。協議を通してよい情報を持ち帰り、子どもたちが「学校っていいな、友達っていいな」と思い生活できるようつなげていきたい。

(3) 協議事項

①佐久市内小・中学校における不登校等の実態と取り組みについて(事務局説明)

○令和5年度欠席30日以上の子童生徒数は増加傾向。そのうち90日以上欠席者の比率は、R4年度より下がっている。

○R4年度30日以上欠席したが、R5年度は30日未満だった児童生徒の分析を行った。市内小中学校においてOL授業、学校以外の場所での学びを出席扱いにする等、本人の気持ちが前向きになる事を大事にして支援していることが考えられる。

②学校に行きづらい児童生徒及び保護者への支援(R6年度)について(事務局説明)

○教育委員会内で週1回合同会議、チャレンジ教室との連絡会議、フリースクール佐久への訪問等を行い、情報共有及び連携した相談支援の検討。

○第1回いじめ不登校担当者会(各校1名参加)に、佐久市子育て支援課、健康づくり推進課、教育相談員も参加。相談窓口・保健師との連携について情報共有。中学校区ごとの意見交換。長野県教育委員会発出資料の確認、利用促進。

○校長会・教頭会において不登校支援の情報提供。子どもの興味・関心・好きを大切にされた柔軟な組織的支援を共に考え、取り組む。

③実態と取り組み、児童生徒及び保護者への支援について意見交換

○健康づくり推進課の保健師が、市内中学校において「一人でやんでいるあなたへ」～SOSを出していいんだよ!～の講話を行った。その際、担当の教育相談員・保健師の顔写真入り相談窓口案内を各中学校へ配布。顔が見えることでSOSを出しやすい案内に工夫。

⇒生徒だけでなく、保護者にとっても良い資料なので、小学校にも配布してほしい。

○連携支援が必要な場合は、学校の支援会議を開催する際に保健師にも声をかけてほしい。

○県教委発出の「コミュニケーションシート」は様々な立場の方が検討を重ねて作られた。不登校の要因はよくわからないことがある。児童生徒・保護者と学校・関係者等がつながりをつくるために

シートを利用してほしい。わかりにくい但不登校の原因はある。

- 自校の30日以上欠席者数はあまり変わらないが、中身は変わってきている。養護教諭が名前入りで欠席者の報告を毎日行い、情報共有している。職員の意識も変化が見られ、生徒に寄り添った柔軟な支援が増えてきた。
- 支援体制の見える化を図るため、スクリーニングシートを活用したい。
- 夏休み中に中学校区の関係職員が集まり連携会議を実施、連絡がつきにくい家庭への保健師による訪問等、関係者が連携した取り組みが増えてきた。
- P-smile 親の会、学校の親の会への参加者も増えつつある。親同士の連携も大事。
- 未然防止が大事。

④「フリースクール佐久」の現状と課題（説明・見学）

- 佐久市及び近隣市町村より小中学生が来所。
- 寄付金によって運営。スタッフは無償ボランティア。子どもの成長が喜び。
- 本年度、信州型フリースクール認証制度の「学び支援型」に認証された。

(4) 会議後の感想・意見

- 幅広い立場の委員が、それぞれの視点で考えを出し合えるのが良い。併せて、教育長をはじめとする教育委員会学校教育課の皆さんが事務局として同席してくださっている点からも、不登校児童生徒への市教委の本気度が伝わってくる。
- 佐久市内においても学校ごとに様相は違うので、不登校等の問題をどれだけ重要視し、具体的に対策を講じていくことができるかが大切だと感じた。
- つながるためのきっかけづくりの一つとして、コミュニケーションシートを活用できると考えている。家庭からの提出だけでなく、学校としてもつながるための視点が示されている。
- 私自身、個人的にも未然防止に力を入れており、「温かい関係づくり」を学校経営の中で大切にしている点が重なる。時間が許せばもう少し意見を述べたかった。日頃からの学校づくりが、無意識のうちに不登校対策につながっていることも検証したい。また、昨年度長期欠席だった児童に対して、クロムブックを介して自宅とオンラインで教室をつないだり、夏休みに複数の職員で個別学習の支援をしたりするなど、子どもと学校をつなかりを絶やさない働きかけをしていた。その結果として本年度は該当の子どもたちが学校へ顔を見せてくれる機会が大幅に増えている。
- 不登校の子供たちの居場所になるフリースクールの見学、コミュニケーションシートの具体的に触れることができ、大変参考になった。長野市にも広域的に不登校生を支える受け皿として「さきランド」が開設されたが、県内の各自治体がどのような取り組みをしてどのような成果を上げているのか、また共通の課題は何かなどについて、幅広く研修できる機会があると良いと感じた。
- 該当児童生徒と保護者の気持ちに寄り添い、ニーズを見極めながら実効性のある支援をリアルタイムに見極めていくことが重要だと感じている。そのためにも校長、教頭が担当職員とともに本腰を入れてイニシアティブを取るべき時は取る、その判断力と行動力が常に問われる、と日々感じている。